

Top of the world

ドバイ日本人学校 重堂真也

2023.3.11 No.2

関係各所の皆様、大変ご無沙汰しております。ドバイ日本人学校派遣中の重堂です。本校では、昨日卒業式・修了式・離任式が行われ、今年度の児童生徒に関わる活動は一区切りとなりました。私は小学部6年生の卒業担任でしたので、何とも感慨深い一日となりました。

ここで、激動の一年間を（箇条書きで）振り返ってみたいと思います。

- ・生活の立ち上げ（環境や文化、風土、宗教、交通マナー、食生活など、日本との大きな違いに慣れることからスタート）
- ・初の中学校社会・体育を担当し、（休日も含め）教材研究に追われる日々
- ・学校の教育活動に対して非常に意識の高い保護者の方々
- ・出身地もバラバラなところから集まった、個性豊かな児童生徒と学校職員
- ・コロナの緩和措置が敷かれ、一気に復活した学校行事の数々（過去経験職員が不在で一から創り上げる運動会担当）
- ・帯広市立稲田小学校様、並びに帯広市立大空学園義務教育学校様とのオンライン授業
etc.

派遣前、過去派遣経験者の先生方から職場や生活のことなどのお話を伺い、ある程度イメージはしていましたが、実際に派遣されて過ごす中で実感することがたくさんありました。今までの異動経験も踏まえて、「派遣一年目」ということで覚悟はしていましたが、心身ともに擦り減ることの多い、まさに激動の一年間でした。正直、挫けそうになることもたくさんありましたが、その時いつも頭に浮かんできたことは「自分の派遣に関して尽力してくださった方々の顔」と「自分は力をつけるために在外教育施設派遣を希望したという当初抱いた決意」でした。この2つが、「絶対に負けてたまるか！」という意地となり、いつも自分を支えていた気がします。そして、この一年間をやり切ったことで、大変だったことも自分の血肉となり、次年度に向けてとても自信がついたことも事実です。

振り返ると、あっという間の一年間でした。もしかしたら、次年度は一年間がもっと早く感じるかもしれません。

ドバイ日本人学校では、今年度管理職も含め7名の職員が派遣期間を終え帰国されます。4月には、同人数の7名の方々が新規派遣者としていらっしゃるので、自分達の時と同様約半数の職員が入れ替わることになります。現在は、受け入れ準備も概ね終了し、仲間を迎え入れるまで束の間の休息期間です。

次年度も「十勝・帯広の代表として派遣されている」という責任感を持ちながら、日々誠実に研修に務める所存です。